



11/30
(火)

「有法子の龍」を寄贈 込められた未来への願い



「有法子の龍」と関係者ら

ユーフアース
指江地区のサンセットの丘に「有法子の龍」が完成したことを記念して、11月30日、完成セレモニーが行われました。

これは、町内外の建設業有志によって建てられ、周辺一帯の景観整備も実施され、新たな観光スポットとして町へ寄贈されました。

「有法子」とは、どんな場面でも必ず打開策はあるという意味で、一致団結して未来のために長島町を残していこうという願いが込められています。

有志代表の(株)ヒラヤマの平山政彦代表取締役会長は「龍には町民の飛躍や、経済の発展などの願いが込められている。これからの長島町の発展へ一助となれば」と述べました。

12/1
(水)

かみファームが家族経営協定 魅力ある農業を目指して

12月1日、役場で西集落のかみファーム家族経営協定書調印式がありました。

家族経営協定とは、農業経営に携わる世帯員が、意欲とやりがいを持って経営する魅力的な農業を目指して、経営方針や役割分担、家族みんなが働きやすい就業環境などについて、十分な話し合いにより取り決めるものです。

調印式には、代表者の上翔平さん(西)と母親の直美さん、川添健町長や山口正成農業委員会会長らが出席し、経営概況や特徴の説明の後、協定書への

調印が行われました。

翔平さんは「家族と話し合って魅力ある農業を目指し、1人でも多くの方が農業に携わりたいと思ってもらえるよう精進したい」と意気込みを語りました。



協定書に調印した上さん親子(前列)

12/2
(木)

平尾小で命の授業 感謝して食べよう



給食を食べる前のいただきますの様子

12月2日、肥育牛飼育管理をしている(株)マル善が平尾小学校(宮ノ前香織校長・71人)で命の授業を行いました。

同小6年生8人を対象に、マル善や畜産農家の一日について紹介。牛の特徴や生産者の声を聞くことで、普段から食べている命の大切さを学びました。

講師の平通豊さんは「全ての命に感謝して、食べ物を残さないようにしてほしい」と話しました。

当日の町内全小中学校の給食には、マル善が提供した牛モモ肉85^gが使用され、子どもたちは食べる前の「いただきます」から感謝の気持ちを見せました。